

守山まるごと活性化 議事要旨

事業名：

令和2年度 まるごと活性化
赤野井湾プロジェクト 先進地研修

日時： 令和2年11月13日（金）午前9時から午後4時まで

場所： 滋賀県彦根市 水産試験場

出席者： PJ員8名+事務局2名

研修内容

<彦根市 水産試験場>

日頃の調査結果等を報告

- ①ホンモロコ 琵琶湖の固有種 1995年以降に減少
- ②ニゴロブナ 琵琶湖の固有種 1990年代以降に減少

↓

○増やしていくための取組

- ・20mmの稚魚の放流
- ・水草の除去
- ・外来魚の駆除

①ホンモロコ

- ・3～7月に産卵（内湖） 7月以降に北湖へ移動
- ・エリで採捕魚調査 ALC標識（耳石標識）
- ・沖曳網採捕魚調査 ALC標識（耳石標識）

→魚をALCに漬ける（薬品だが魚に害はない）

魚にマークを付けることによりどこで放流されたものか、大体の年齢などが把握できるようにする。

- ・放流後、しばらくの間（約1～2か月間）は湾内に留まり後に湾外へと出ていく。
- ・冬季には、北湖の南側を中心に広い範囲で分布している。
- ・赤野井での放流魚の生残率は2014～2018年までは上昇している。2019年は減少している。
- ・回帰してくる量は、2017～2020年まで上昇傾向にある。
- ・産卵は2017～2020年に向かって上昇傾向にあり、2018年のみ減少している。
- ・2019年になると湖西でも産卵がみられるようになった。

- ・ホンモロコは高い生残率を維持している。
- ・赤野井は、再生産に関してどこの地域よりも早く回復している。
- ・2019年には、広い範囲で分布するようになった。

↓

- ・生息しやすい環境が整っている（地元の環境整備がうまくできている）。
- ・放流が大きく影響している。

②ニゴロブナ

- ・生残状況は、低い状態で維持している（2017年は高い）。
- ・ほかの魚からの食害により、ニゴロブナが減少している。

→ホンモロコよりニゴロブナの方が食べられている。

※行った実験

- ・オオクチバスを入れた池に、ホンモロコとニゴロブナを入れ、48時間後に生存率を見る実験を行った結果、ホンモロコは全体の10%、ニゴロブナは全体の50%食べられている結果となった。
 - ・親魚の回帰状況調査では、赤野井で放流した魚が、捕獲数全体の73%程度を占めていた。
 - ・2019年以降は、水田水路へ回帰がみられるようになった。
- ほとんどが、放流した魚だった。

- ・今後の展望
- 産卵がしやすい環境について考えていく必要がある。
生残率を下げている要因の調査が必要。
- ～質疑応答～
- ・ニゴロブナの生残率が2017年は高かったので、今年は期待できるのではないか。
- 3年が経過し、卵を産めるくらいには成長していると思うので、今年は期待している。
- ・放流している魚の数はどの程度の数なのか。
- 200万尾程度を放流し、30万から50万尾が湾外へ出て行っている。
- ・放流する量を増やす予定はあるのか。
- 増やすかどうかは未定だが、放流する母数を増やせば、生残率も比例して上がっていくのではないかと考えている。
- ・2019年にホンモロコの生残率が減少した理由は？
- 複数の要因があると考えられるが、2019年は水草が大量発生した年で、水草が増えると外来魚が増えることが多い（水草が隠れ場所になる）ので、増加した外来魚に食べられているのではないかと推測している。
- ・食害によりニゴロブナが減りやすい理由は？
- 理由に関しては現在調査中ではあるが、動きが遅いことが要因のひとつと考えられる。
また、逃げ方についても理由のひとつではないかと考えている。
※ホンモロコは、別々の方向へ逃げる。
ニゴロブナは、集団で逃げる。
- ・ホンモロコの産卵を増やす手段はあるのか。
- 川底の状態にもよると思う。砂利がある方がいいのかもしれない。
また、柳の根やヨシに卵を産み付けることが多いので、環境を守っていくことが大切。
- ・産卵が多くみられるところに柳の木を植えるなどの取り組みはしているのか。
- していない。
- ・外来魚を駆除した場所に再び外来魚が増えることはないのか。
- まったく増えないということはないが、基本的に卵から孵った場所から大きく移動しないことがほとんどなので、駆除して減らすことができれば、大量発生することはほぼないと思う。
赤野井湾では、定期的に駆除を実施してもらっているので、ホンモロコやニゴロブナなどの生残率が高いのではないかと考えている。
- ※日頃の調査結果をご紹介します。
それらの調査結果から、疑問に思うところ、気になるところなど、いくつも質問をされ、熱心に取り組んでおられました。工作中的現場にもお邪魔させていただき、少しお話を聞かせていただきました。
日頃からの学区での取り組みの影響が出ているようで、良かったと思います。

